

関西グローバルヘルスの集い
オンラインセミナー第5弾 「わたしたちの地球、わたしたちの健康」
「プラネタリーヘルスという新たな視座」
**「WHO憲章からプライマリヘルスケア(PHC)、
そしてプラネタリーヘルス(地球の健康)」**
2022年6月2日



パプア・ニューギニア・エ
ンガ州(人口約30万人・
標高2,000メートル)
(2019年1月)

中村安秀

公益社団法人日本WHO協会 理事長
(大阪大学名誉教授・国立看護大学校特任教授)



公益社団法人 日本 WHO 協会
FRIENDS OF WHO JAPAN

「世界保健デー2022」

日時；2022年4月7日（木） 15:00～17:00 （オンライン開催）

プログラム

1. 開会挨拶：

中村安秀（公益社団法人 日本WHO協会 理事長）

2. アドバイザリー・グループの皆さま方からのご挨拶 （動画、パワーポイント、ワードなど）

3. 動画作品「ウィズコロナ 世界と共に」オンライン受賞式 （受賞動画の5作品を上映いたします）

4. パネル・ディスカッション 「Our Planet, Our Health（わたしたちの地球、わたしたちの健康）」

座長：中村安秀（日本WHO協会理事長、大阪大学名誉教授）、
生駒京子（関西経済同友会代表幹事、日本WHO協会副理事長）

パネリスト：

「野生動物からみたプラネタリーヘルス」

山極壽一（総合地球環境学研究所・所長、京都大学前総長）、

「プラネタリーヘルスの実現に向けた取り組み」

渡辺知保（長崎大学・学長特別補佐、国立環境研究所前理事長）



世界保健機関(WHO)憲章

Constitution of the World Health Organization (WHO)

signed on 22 July 1946 by 61 States

世界保健機関(World Health Organization)は、1946年、ニューヨークで開かれた国際保健会議が採択した世界保健憲章(1948年4月7日発効)によって設立された。

健康とは、完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。(外務省 訳)

Health is a state of complete physical, mental and social **well-being** and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが**満たされた状態**にあることをいいます。

(公益社団法人 日本WHO協会 訳)

アルマアタ会議

(International Conference on Primary Health Care)

ベトナム戦争(1964年ー75年)とソビエト連邦の
アフガニスタン侵攻(1979年)の間隙を縫うよう
に、東西冷戦のデタント(緊張緩和)の時期に
開催された。

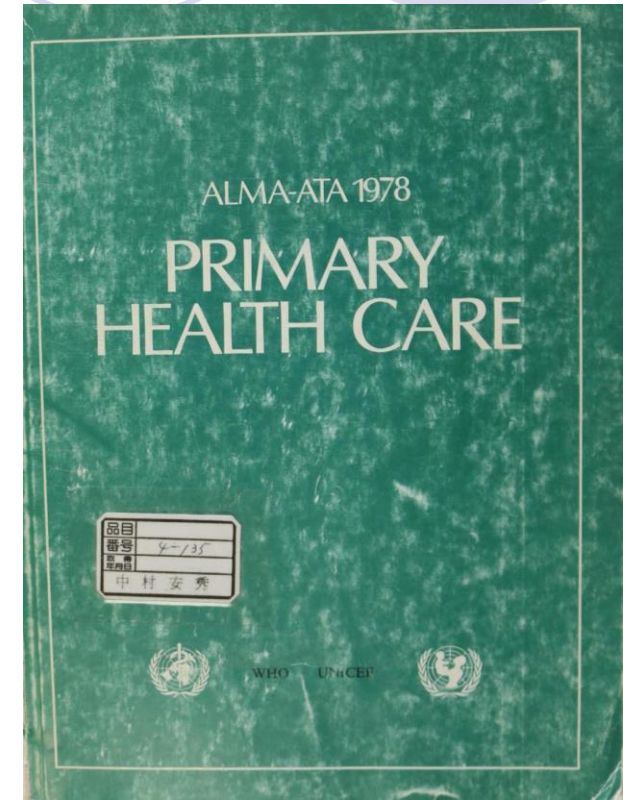
「Health for All:2000年までにすべての人に健康を！」

とき:1978年9月6日ー12日

主催:WHO(世界保健機関)とユニセフ

場所:アルマアタ(旧ソビエト連邦、現在はカザフスタン共
和国)

参加者:143か国の政府代表と67の機関(国際機関やボ
ランティア団体を含む)



Report of the International
Conference on Primary Health Care,
Alma-Ata, USSR, 6-12 September
1978
Jointly sponsored by WHO and UNICEF

Halfdan T. Mahler

(1923 –2016)

- ・デンマーク出身、医師
 - ・WHO事務局長(1973年―88年)
- 1975年よりWHOとユニセフが共同し
Basic Human Needsに取り組む。

「第26回世界保健デーに寄せて」

世界は富んでいます、そのせつかくの富も、十分に活用されてはおりません。何百万という人びとが慢性の飢餓と栄養失調におびえて生活を送っている一方では、食べ過ぎて、別の意味での栄養失調に陥っている人もいます。」

(日本WHO協会『目で見えるWHO: 第7号、1974年』)



PHCが提示した理念

その多くがSDGsに引き継がれている

- ・健康は基本的人権である(**fundamental human right**)
- ・保健医療サービスは公平に提供されるべきである
- ・科学性(**scientific**)
- ・社会的受容性(**socially acceptable**)
- ・ユニバーサル・アクセス(**universally accessible**)
- ・住民完全参加(**full participation**)
- ・費用負担ができること(**affordability**)
- ・自立と自決(**self-reliance and self-determination**)

わたしたちの世界を変革する 持続可能な開発のための2030 アジェンダ

Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development

2015年9月 第70回国連総会

理念

だれひとり取り残されない (No one left behind)

- ・17の「持続可能な開発目標 (SDGs)」
- ・169の具体的なターゲットを設定

目標3「すべての人に健康と福祉を」

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する (外務省仮訳)

Goal 3. Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages



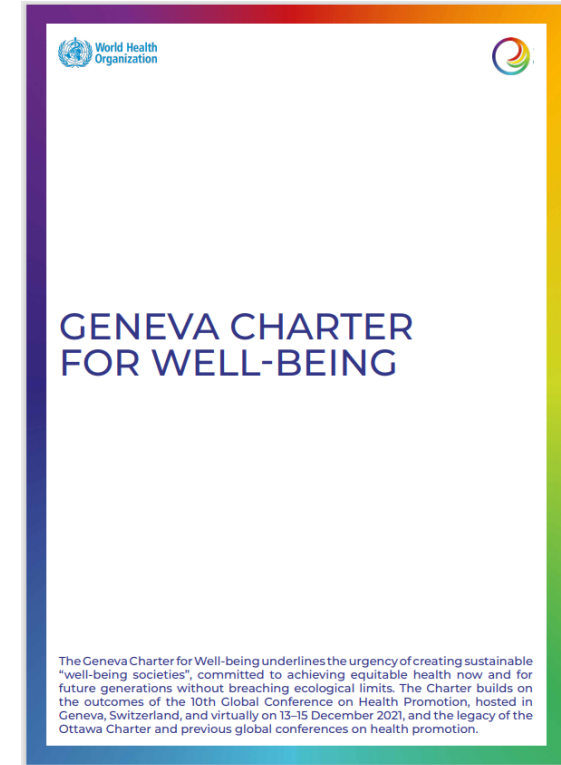
ウェルビーイングのためのジュネーブ憲章 (2021年: 第10回ヘルスプロモーション国際会議)

ウェルビーイング社会 (Well-being societies)

現在および将来の世代のすべての人々が、居住地に拘わらず、健康な地球で繁栄するための基盤を提供

地球とその生態系を大切にし、尊重し、育む(健康な地球は、現在および将来の世代の健康とウェルビーイングに不可欠)

- 身体的、精神的、霊的、社会的なウェルビーイングを統合した健康についてのポジティブなビジョン
- 人権、社会的・環境的正義、連帯、ジェンダー・世代間公平、平和の原則
- GDPを超えた、人類と地球のウェルビーイングを考慮し、公共支出の新たな優先順位につながる新たな指標
- エンパワーメント、包括性、公平性、有意義な参加に焦点をあてたヘルスプロモーション



「世界保健デー2022」 (2022年4月7日)

Our Planet、Our Health (わたしたちの地球、私たちの健康)

新型コロナウイルス感染症が教えてくれたこと

- ・ 感染症に国境はない
- ・ 新興感染症が地球規模で大流行する可能性はある
- ・ あまりにも性急にヒトの健康だけを追い続けてきた



79億人の人類だけを対象とした保健医療には限界。
家畜、野生動物、昆虫、植物など地球上の生き物すべての健康に配慮したうえで、ヒトの健康を考える視点が必要不可欠！



最近の世界保健デーのテーマ

年	日本語
2011年	薬剤耐性の脅威 今動かなければ明日は手遅れに
2012年	高齢化と健康 健康であってこそその人生
2013年	血圧管理の重要性：心臓疾患・脳卒中のリスクを減らそう
2014年	節足動物が媒介する感染症から身を守ろう
2015年	食品安全：あなたの食べものはどれくらい安全ですか？
2016年	糖尿病
2017年	うつ病：一緒に話そう
2018年	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ
2019年	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ
2020年	看護師、保健師、助産師を支援しよう
2021年	より公平で健康的な世界を築くために
2022年	わたしたちの地球、わたしたちの健康

Planetary Health(プラネタリー・ヘルス)

ポスト・コロナ時代の保健医療のあり方

1. COVID-19がどう人類と共存するか？

- ・ヒトは、多くの細菌、ウイルス、寄生虫、昆虫などと共存してきた

2. ワン・ヘルス (One Health)

- ・「家畜がくれた死の贈り物」人類が家畜とともに集団で暮らす
『銃・病原菌・鉄』（ジャレド・ダイヤモンド）（草思社：1997年）
- ・人獣共通感染症（Zoonosis）
ウイルスや細菌が動物（家畜、野生動物）と人類の双方に感染する

3. プラネタリー・ヘルス (Planetary Health：地球健康)

- ・単なる環境問題の解決だけではない
- ・地球という惑星としての健康（Planetary Health）に思いを馳せる
- ・「人間の暮らしは自然の恵みのうえに成り立っている」
（鎮守の森、里山、入会地など）



『保健の科学』杏林書院
2021年7月号特集
「プラネタリーヘルスという
新たな視座」

Planetary Health: a new science for exceptional action

プラネタリーヘルス:既存の枠を超えた行動に向かう新しい科学

Horton R.: Planetary health: a new science for exceptional action. the Lancet 386 :1921-22, 2015

ウェンデル・ベリー(Wendell Berry:1934年生)

農業者、詩人、哲学者:アメリカ合衆国

「わたしたちは、自分にとって良いことが世界にとってもいいのだという前提で生きてきた。私たちはまちがっていた。生き方を変えなければならない、仮定を逆転させてみよう。世界にとって良いことは、私たちにとってもいいことなのだ。」



プラネタリーヘルスに関するサンパウロ宣言

(2021年10月)

- ・気候変動、生物多様性の喪失、空気・水・土壌の質の低下は、私たちが依存している基本的な生命維持システムを蝕んでいる
- ・人類の健康とウェルビーイングのあらゆる側面が、地球環境の変化の影響を受けている。特に最も貧しく、排斥されたコミュニティの人々の命と生活が失われている
- ・地球上でどう生きるのかを根本的に変えること、すなわち「大転換(Great Transition)」が必要である

キーメッセージ：すべての人々へ

意図をもって行動してください。地球(planet)を治す(heal)パートナーとなってください。私たちは皆、相互につながった世界で共に生きており、一人ひとりの行動は他の人に影響を与えます。だからこそ、私たちは共に、人類への奉仕と、人類と共存するすべての生物種が依存する自然システムの保護と回復のために献身することを約束します。

プラネタリー・ヘルス プロジェクト現場からの声

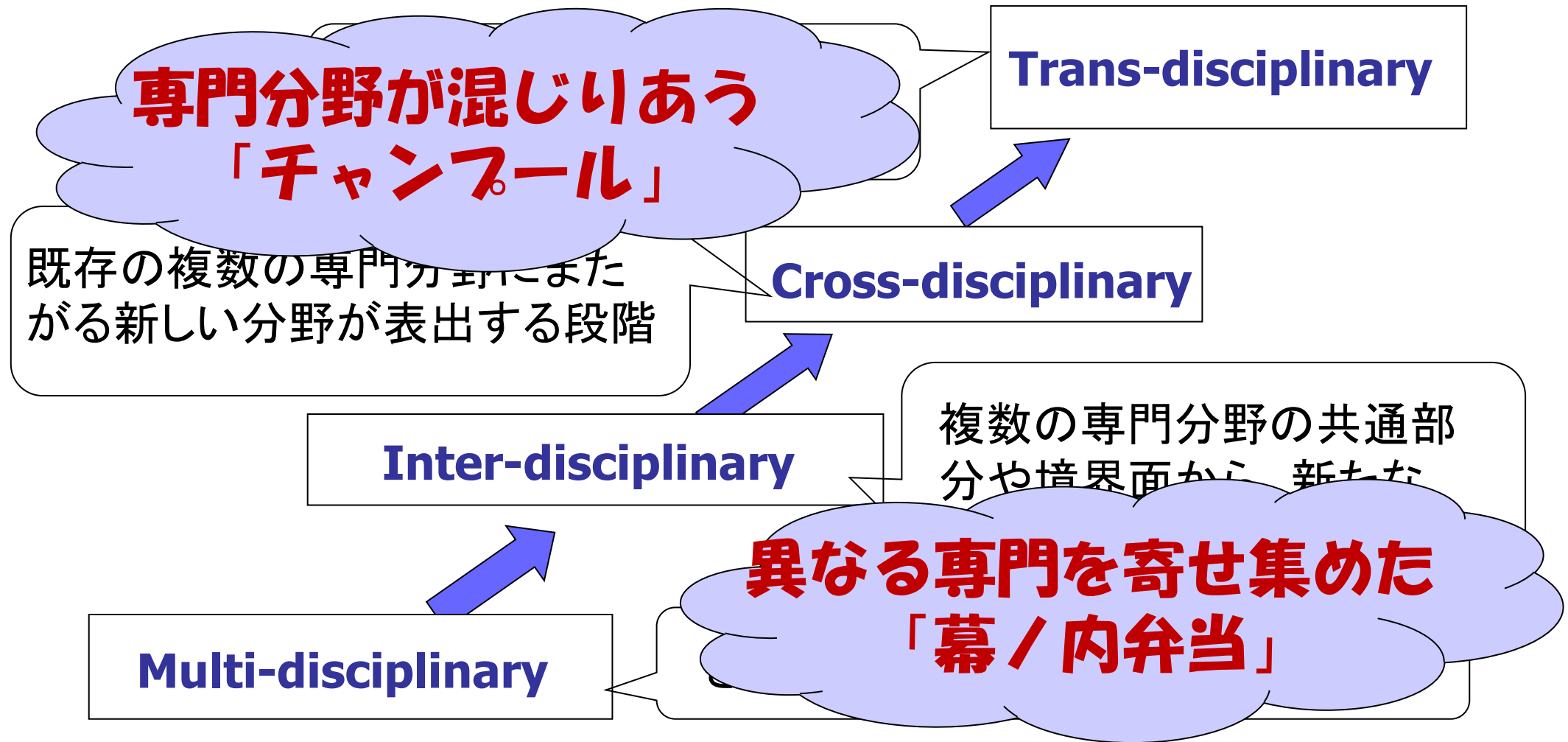
プラネタリー・ヘルスに着目した取り組みが、フィジーで行われている。河川の自然状況や村の生活インフラを調査したうえで、河川の流域管理することにより腸チフスなどの感染を押さえようというプロジェクトである。

オーストラリアのアーロン・ジェンキンス氏は、それぞれの地域における自然環境や人の暮らしは異なるため、まったく同じものを他の地域に当てはめることはできない。必然的に、プラネタリー・ヘルスの取り組みは、オーダーメイドのものになるという。

また、フィジーでは、「人間の暮らしは自然の恵みの上に成り立っている」という伝統的な価値観が根付いているので、プラネタリー・ヘルスの概念を村人たちがすぐに受け入れてくれたという。

国際開発ジャーナル編集部：近づく地球の限界—求められるプラネタリーヘルスの視座． 国際開発ジャーナル 767：12-27, 2020

さまざまな「学際」のかたち



プラネタリーヘルスの途上にて

- 1.世界の多くの村では、プラネタリー・ヘルスは決して新しい概念ではない。日本にも古くから鎮守の森、入会地、里山などのかたちで、人びとが暮らしを守りつつ、自然の恵みを次世代に伝えてきた伝統がある。
- 2.地域によって、植生も異なり、生物多様性も異なる。台風や洪水や津波といった災害に対する脆弱性や強靱性は地理的環境により大きく依存する。文化や歴史や伝承にも配慮する必要がある。
- 3.プラネタリー・ヘルスを科学するには、歴史学からの貢献は必須である。「歴史とは現在と過去との絶え間ない対話である」(ヘンリー・カー)
4. cross-disciplinary あるいはtrans-disciplinaryな学際アプローチが必須である。



Mt MIWA (Nara, Japan)

A small mountain with 467 meters. The mountain is the God itself. The community respect all the trees, plants and animals in the mountain.

関西グローバルヘルスの集い(KGH) オンラインセミナー第5弾 「わたしたちの地球、わたしたちの健康」

2022年7月7日(木) 19:00—20:30

「環境が健康に及ぼした大きなインパクト」

- ・「アラル海が教えてくれたこと」

橋爪真弘さん(東京大学国際保健政策学・教授)

- ・「水俣病から学び続けること」

坂本峰至さん(国立水俣病総合研究センター:所長特任補佐)

2022年8月4日(木) 19:00—20:30

「ヒトも動物も昆虫も！ 健康への取り組み」

- ・「ワンヘルスへの国際的な取り組み」

釘田 博文さん(OIE国際獣疫事務局アジア太平洋地域事務所 代表)

- ・「農薬における昆虫類多様性の危機」

五箇 公一さん(国立環境研究所)